

グローバル通信

長崎県立口加高等学校グローバルコース 第12号 平成30年10月18日

第13回長崎県高等学校英語ディベート大会

10月13日(土)グローバルコースの6名(2年生:井上祐香さん、大崎希生さん、林田摩耶さん、1年生:氏原由博くん、栗田悠衣さん、小玉亜澄さん)が、県英語ディベート大会へ出場しました。今年度のテーマは「日本国は、本人の意思による積極的安楽死を合法化すべきである。是か非か。」でした。準備段階では、生徒自ら安楽死に関する資料を集め、賛成側・反対側としての立論を作成しました。

大会当日は壱岐高校・諫早高校と対戦しましたが、残念ながら2敗し、予選敗退となりました。しかし、他校の生徒との英語ディベートは大変刺激的で、新たな経験と自信を得ることができました。

●対壱岐高校(口加は賛成側)



○対諫早高校(口加は否定側)





生徒の感想

- 調べたことをもとにして考え、それを英語で表現していくには、語彙力が必要だと思った。
- 授業を通じてクラス全員で英語力を上げていくのもいいが、初対面の他校の人とお互い持っている力をぶつけ合うのもとても勉強になった。
- 相手が話していることがきちんと聴き取れなかったので、試合で出てきそうな単語をノートにまとめておいたり、相手の話すスピードについていけるようにリスニングを強化しておくべきだった。
- 自分たちの主観だけで主張すると説得力が弱くなるため、主張の「根拠」の重要性を強く感じた。
- 説得力を持たせるためには、言葉を選び、筋道を立てて話すことが大切だとわかった。日本語だったらとっさに言いたいことが言えるけれど、英語になると難しく、もっと英語を勉強したいと思った。他校の人たちが英語を流ちょうに話しているのを聴いて、同じ高校生なのにすごいと思った。私たちはまだまだだと改めて思った。安楽死についても深く考えることができた。社会問題や人の生と死について興味をもつことができた。ディベートは楽しい！